

CUC公開講座2022年12月23日

地域の自助力向上を目指す 楽しい防災教育

サービス創造学部教授
DINING SERVICE DESIGN LAB 代表
楽長プロジェクト3サブリーダー

西尾淳

西尾淳

■ 1981年 東京藝術大学美術学部デザイン科卒業

■ 1981年 株式会社博報堂(デザイナー)

アートディレクター

クリエイティブディレクター

買物研究所CD/買物広告製作所長

■ 2014年 千葉商科大学サービス創造学部教授

DINING SERVICE DESIGN LAB 代表



学長プロジェクト3の概要

4つの学長プロジェクト

PROJECT 1 会計学の新展開

Accounting(アカウンティング)はAccountability(アカウンタビリティ)を担います。DX(デジタルトランスフォーメーション)時代における「会計学の新たな展開」をめざし、情報化に対応するとともに、会計学の社会的役割である意思決定過程の透明性を確保し、企業経営と事業活動のアカウンタビリティを果たすことを可能とする対策を探索し、情報発信してまいります。

PROJECT 2 CSR研究と普及啓発

CSR(Corporate Social Responsibility)はビジネス倫理や政策倫理に基づいて企業の行動様式を環境や社会へ配慮したものに変わっていくことです。本プロジェクトでは官民を問わず、真に社会に必要とされる、あるべき組織のSR(Social Responsibility)について考えます。環境・社会に配慮した広義のアセスメント研究やESG投資、社会的責任の視点からの新しい大学評価指標の開発やエシカルグッズ開発なども行います。なお、大学の場合のSRはUSRとなります。

PROJECT 3 安全・安心な都市・地域づくり (Resilience)

本学の所在地である市川市国府台地区は東京都の東端、江戸川に面する高台にあり、防災拠点です。ここを市川・江戸川地域の防災拠点のひとつとするだけではなく、近隣の教育機関や医療機関と連携し、国府台コンソーシアム^{※1}を形成し活動を展開します。さらに、大学コンソーシアム市川^{※2}も設立しました。これらにより、地域資源を生かしたまちづくりや安全な地域交通システムの形成などにも多様な主体と連携し、取り組めます。

PROJECT 4 環境・エネルギー(Sustainability)

千葉商科大学を自然エネルギー100%社会づくりの拠点とするため、「まず課より始めよ」の精神で取り組んでいます。そこで、大学所有のメガソーラー発電所と市川キャンパス屋上太陽光発電と大学のエネルギー使用量を同量にする「自然エネルギー100%大学」への取り組みを進め、2019年に日本で初めて、電気に関してこれを達成しました(RE100大学)。2020年には、電気+ガスの総エネルギーに関しても実測上100%を達成。この経験を踏まえ、RE100大学を全国の大学に広めようと、本学が主体となって自然エネルギー大学リーグを2021年に設立しました。地域に貢献するエネルギー事業者の起業・経営支援など、本学が持続可能な地域分散型エネルギー社会の核となることをめざします。

「発信型三方よし」の精神で 世界を変える

コロナ後の時代を考えると、これからの日本はグローバルな交流に多くを依存するのではなく、地域分散型・分権型社会をめざすべきだと思います。地域の自然環境、気候風土を最大限活用して、その地域に合った多様な生活文化を営むこと。ほどよい大きさの自治体が多様性、自立性を保ちつつ、互いにオープンな関係で協力し合うこと。そんな姿が、持続可能性のキーワードではないでしょうか。例えばSDGsの先進国といわれるフィンランドやノルウェーの、規模そのものがアメリカ等の自治州もありますが、50運営しやすいので

地域分散型社会
ギューもできるだけ
す。基本的な消費
りない分を他の地
ルギー100%大学
するためのひとつ
培したぶどうを使
農と商を組み合
んでいきます。中
一人ひとりが活躍
な人材こそが、千
いえるでしょう。
さまざまなプロジ
生たちにとって心
ロシアによるウ
機や気候変動とい
にどう立ち向かう
生きと社会課題に
日本と世界の将来

国府台コンソーシアム^{※1}を形成し活動を展開
します。さらに、大学コンソーシアム市川^{※2}も設立
しました。これらにより、地域資源を生かしたまち
づくりや安全な地域交通システムの形成などにも
多様な主体と連携し、取り組めます。

江戸時代の商業
「陰徳善事」がよ
し
域コミュニティで、
しかし、多様化とグローバル化が進んだ現在では、そ
うはいきません。取り組みの経緯と成果を正しく発信し、
シェアしていくことも社会的責任といえます。いわば「発
信型三方よし」です。

今後とも千葉商科大学の学びと取り組みについて、すべ
てのステークホルダーの方々に向けて発信を行ってま
いりますので、温かく見守っていただければ幸いです。

今後とも千葉商科大学の学びと取り組みについて、すべ
てのステークホルダーの方々に向けて発信を行ってま
いりますので、温かく見守っていただければ幸いです。

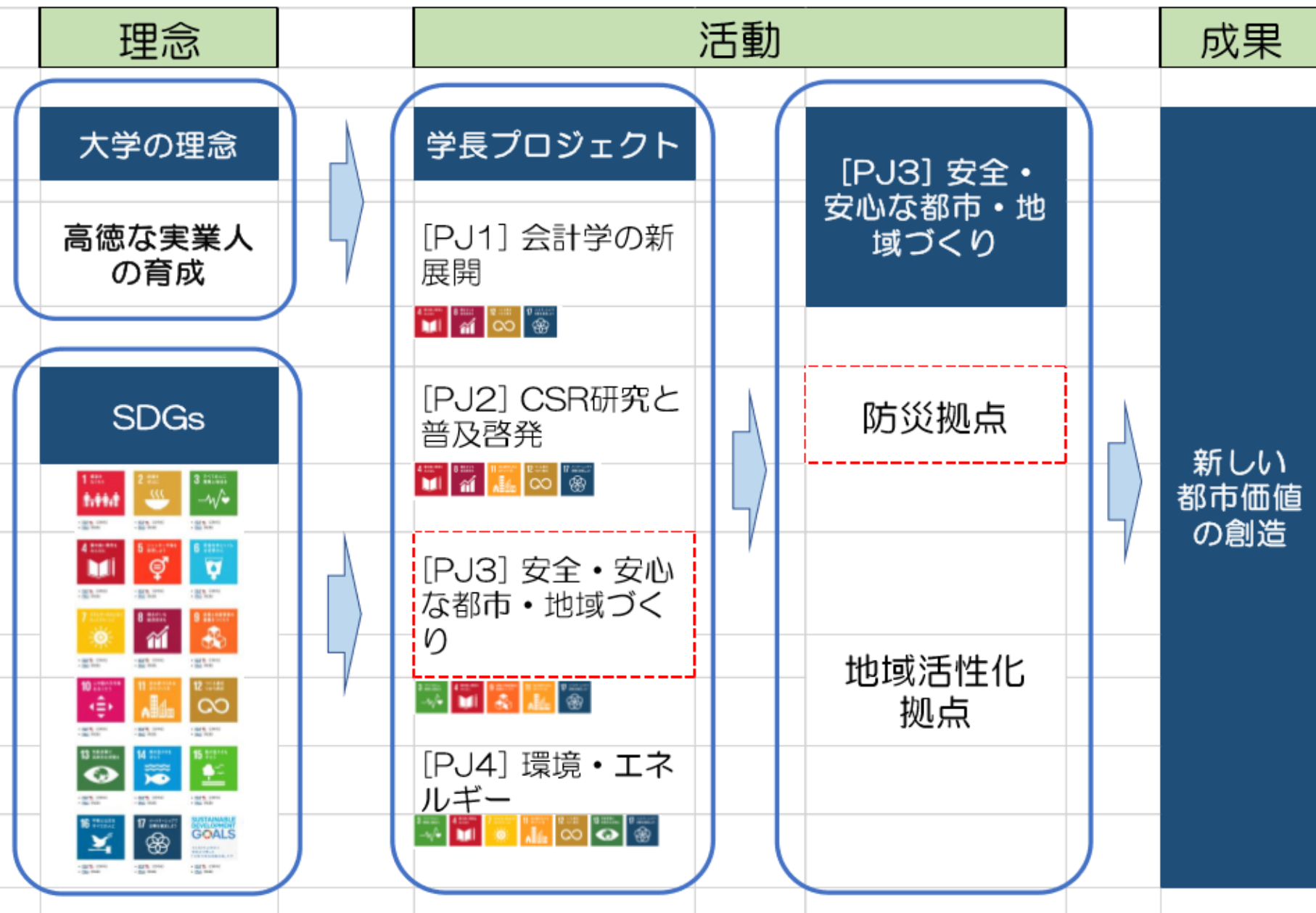
PROJECT 3

安全・安心な都市・地域づくり (Resilience)

本学の所在地である市川市国府台地区は東京都の東端、江戸川に面する高台にあり、防災拠点です。ここを市川・江戸川地域の防災拠点のひとつとするだけではなく、近隣の教育機関や医療機関と連携し、国府台コンソーシアム^{※1}を形成し活動を展開します。さらに、大学コンソーシアム市川^{※2}も設立しました。これらにより、地域資源を生かしたまちづくりや安全な地域交通システムの形成などにも多様な主体と連携し、取り組めます。

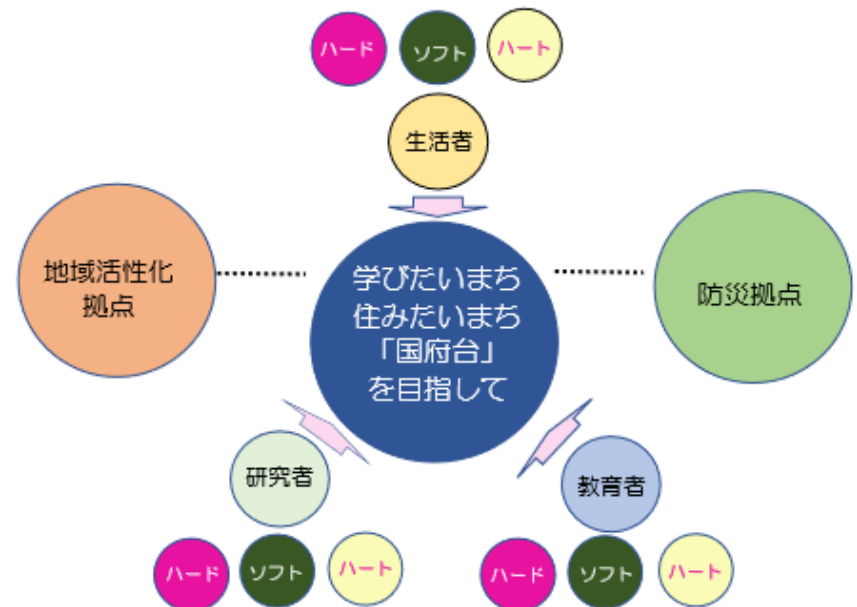
※1 国府台コンソーシアム：P44参照
※2 大学コンソーシアム市川：P44参照

学長プロジェクト3による都市価値の創造



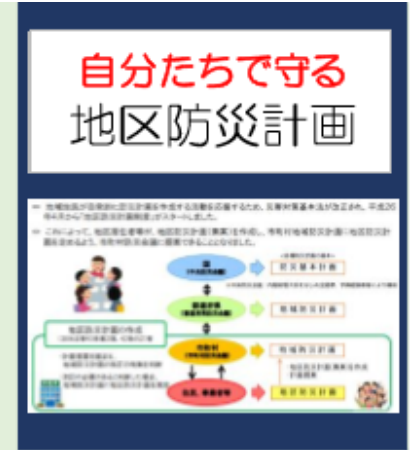
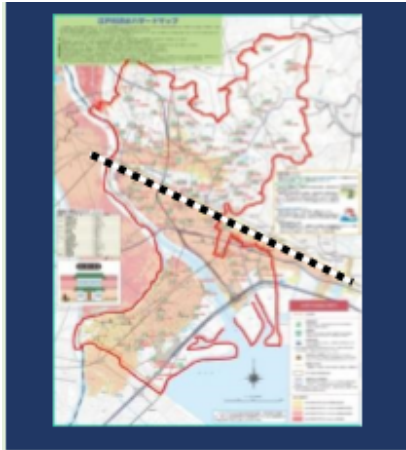
学長プロジェクト3と連携する国府台コンソーシアム

| 「国府台コンソーシアム(2017年12月11日)」 | |
|---------------------------|-------------------|
| メンバー | 和洋女子大学 |
| | 和洋国府台女子中学校高等学校 |
| | 千葉商科大学 |
| | 千葉商科大学附属高等学校 |
| | 東京医科歯科大学教養部 |
| | 千葉県立国府台高等学校 |
| | 市川市立第一中学校 |
| | 市川市立国府台小学校 |
| | 筑波大学附属聴覚特別支援学校 |
| | 国立国際医療研究センター国府台病院 |
| オブザーバー | 市川市役所 |



10機関の連携で防災能力強化と交流深耕を目指す

国府台コンソーシアムとして考えるべき防災のポイント



最近、地震や豪雨が増えている。江戸川が氾濫すると最悪の場合には総武線以南が浸水し、市川で30万人に被害が発生する(市川市ハザードマップ)。

東日本大震災以降、激甚化する災害に対し政府の防災方針は自分自身で身を守る「防災4.0」という考え方になっている。

誰も取り残さないというSDGsの考え方が社会の基本になってきている。

地域防災計画では千葉商科大学の学生・職員は、地域住民でなく帰宅困難者のため自分の身は自分で守る必要があり、地区防災計画が必要。



地区防災計画の検討 + 楽しい防災教育

学長プロジェクト3が推進する「楽しい防災教育」

楽しい防災教育

72時間生き残る
サバイバル・
キャンプ

防災に関する The University 2018年 03月号

楽しい防災教育
防災キャンプ in いちかわ

●72時間サバイバル教育プログラムで、千原高校大学学生のスキルを高める。
●各大学生のスキルを指導するインストラクター。
●千原高校の中心と、地域の小学校にサバイバル教育を定期的に実施。
●小学生と家族や近隣者へのインフルエンサー役とし、周辺地域に広がる。
●行政、企業界との連携で参加者が多いイベントとして実施される。
市川市民全体のサバイバルスキルが高まる。

防災に関する The University 2018年 03月号

◆72時間サバイバル教育プログラム

72H MASTER

72H

避難ルートを知る
防災フォトログ

フォトログ
in
いちかわ

2018.3.31 SAT
8:30~15:30

参加費 募集

THE UNIVERSITY DINING

今日のテーマは「防災」です。

避難体力をつける
防災ノルディック
ウォーク

熊手渡による大規模地震が懸念されています。市川市で近年同じ地震が発生した
場合、約100km程度の北上震源の地震発生が1メートル程度の揺れ幅で発生し、
ノルディックウォークは、水たまりが少なくなって、歩行が楽になって車庫に持って
ストロークで歩かせることが、避難が楽になる方法として生活されています。
千原高校では、楽しみながら避難経路と避難場所を学ぶことができる防災
ノルディックウォークの体験型企画「防災ウォーク」(100名)を実施し、実施します。
参加費は無料です。下記までご連絡の上、参加ください。

共催 千原高校、一般社団法人市川にぎわいセンター、千原高校195
後援 市川市教育
日時 2022年4月23日(土曜日) 13時30分~15時30分
場所 千原高校 (701教室 501 体育館)
申込 ① 講師 千原高校体育社会福祉部 吉村 浩行
千原高校ノルディックウォーク推進委員会 田村 浩人
② 事務局 出 内容はこまめに随時更新します。

自分用の避難所
車バイバル

災害時にマイカーで避難生活ができるだろうか？
車バイバル開催!
2021年6月13日 千原高校大学プロジェクト3





「楽しい、防災教育」



大学は地域防災に何ができるか

千葉商科大学



大学は地域防災に何ができるか

千葉商科大学

- ◆千葉商科大学は約6200人の若者が集まる場所(約2000人在校)
- ◆有事の際、学生は被災者ではあるが、支援者ともなって欲しい
- ◆自らを守るスキルと他者を救うマインドを持つこと
- ◆継続的に学べる防災教育が必要
- ◆自助共助が当たり前な地域社会へ

◆千葉商科大学将来構想

- ・日本で一番、地域・市民に役立つ大学になる

➡学長プロジェクトⅢ

「安全・安心な都市・地域づくり」



 THE UNIVERSITY DINING

◆地域交流の拠点としての The University DINING 2つの視点

①日常における地域交流拠点として

- ・大学に来るきっかけ作り
- ・何度も来たくなる状況づくり
- ・顔の見える大学へ（学生・教員・職員）
➡安心できる場所、安心できる人



②有事の際の地域防災拠点として

- ・地域住民への防災意識啓蒙
- ・大学の防災知識、サバイバルスキル向上
- ・地域住民の防災知識、サバイバルスキル向上
➡有事に強い地域づくりへの取組



キーワードは「楽しい防災教育」

◆なぜ防災イベントに人は集まらないのか？

- 災害は来ないかもしれない
- すぐに来るとは限らない
- 今やらなくてもよさそうな気がする
- イヤなことは考えたくない
- 優先事項があることにする

◆なぜ参加してもスキルが高まらないのか？

- 義務で参加している
- 人がやっているのを見ているだけ
- イヤイヤやる
- やったふりをする
- 知ったことで良しとする

◆楽しさのオブラートに包むやり方もあるのでは？

- ・最終目的＝「サバイバルスキルを多くの市民が体験的に身に付ける」こと。
- ・市民の興味関心になり、多くの市民が参加しなければ意味がない。
- ・楽しいと感じる部分を作り、継続したくなる体験にすること。

生活者のハッピーな体験を 創り出すことがサービス創造

◆防災・サバイバル＝アンハッピーな体験イメージ

◆アンハッピーをハッピーに変化させる必要がある！

◆人は面倒くさい事、時間のかかる事、汗をかく事は、やりたくない。

◆サービスのベクトルが変化した事例

・野菜作り ←…………… スーパーで買う(便利)

・キャンプ ←…………… リゾートホテルでリラックス(快適・癒し)

・DIY ←…………… 家具屋で買う(安心)

・手作り料理 ←…………… レストランで食べる(楽)

？ 防災教育/サバイバル体験 ←…………… テレビや書籍で情報を得る(楽・安心)

◆その体験(時間)によって生まれる価値 → 新たな人間関係、達成感、成果物

【参考】楽しさのオブラート例：吸殻ポイ捨て防止キャンペーン



環境問題に取り組むイギリスのNPO団体 Hubbub による、ロンドンの街からタバコのポイ捨てをなくそうとするキャンペーン。

毎年、イギリス政府はおよそ8.5億ポンド（約1,500億円）もの予算をかけて、公道清掃にあたっているにも関わらず、「この12年間一向に改善されていない。

政府主導では、いつまでたっても自分たちの街を綺麗にはできない。市民レベルでのアクションを呼びかけ、インタラクティブデザインや公共広告に特化したデザインチームと協力して実施したクリーンキャンペーン。

楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

走って、獲って、ポイントゲット!

フォトログ in いちかわ

第3回

外理道工事中

工事現場を横切る部分の歩道橋や歩道は緊急に架け替えるので、現場の案内板や標識に従ってください。
 標識が設置されているので車や自転車に注意して通行してください。

交通ルールは必ず守る
 観光地や路上車への対応では見守ってください
 (必ず安全確認をしましょう)
 神社や寺社境内や中継所の安全性がある場合は案内板に従ってください。
 観光地や数回往復を必要とする場合は見守ってください。
 その場合、必ず安全確認を必ず行ってください。

① 市川市消防第一分団
 ② 市川市消防第二分団
 ③ 市川市消防第三分団
 ④ 市川市消防第四分団
 ⑤ 市川市消防第五分団
 ⑥ 市川市消防第六分団
 ⑦ 市川市消防第七分団
 ⑧ 市川市消防第八分団
 ⑨ 市川市消防第九分団
 ⑩ 市川市消防第十分団
 ⑪ 市川市消防第十一分団
 ⑫ 市川市消防第十二分団
 ⑬ 市川市消防第十三分団
 ⑭ 市川市消防第十四分団
 ⑮ 市川市消防第十五分団
 ⑯ 市川市消防第十六分団
 ⑰ 市川市消防第十七分団
 ⑱ 市川市消防第十八分団
 ⑲ 市川市消防第十九分団
 ⑳ 市川市消防第二十分団
 ㉑ 市川市消防第二十一分団
 ㉒ 市川市消防第二十二分団
 ㉓ 市川市消防第二十三分団
 ㉔ 市川市消防第二十四分団
 ㉕ 市川市消防第二十五分団
 ㉖ 市川市消防第二十六分団
 ㉗ 市川市消防第二十七分団
 ㉘ 市川市消防第二十八分団
 ㉙ 市川市消防第二十九分団
 ㉚ 市川市消防第三十分団
 ㉛ 市川市消防第三十一分団
 ㉜ 市川市消防第三十二分団
 ㉝ 市川市消防第三十三分団
 ㉞ 市川市消防第三十四分団
 ㉟ 市川市消防第三十五分団
 ㊱ 市川市消防第三十六分団
 ㊲ 市川市消防第三十七分団
 ㊳ 市川市消防第三十八分団
 ㊴ 市川市消防第三十九分団
 ㊵ 市川市消防第四十分団
 ㊶ 市川市消防第四十一分団
 ㊷ 市川市消防第四十二分団
 ㊸ 市川市消防第四十三分団
 ㊹ 市川市消防第四十四分団
 ㊺ 市川市消防第四十五分団
 ㊻ 市川市消防第四十六分団
 ㊼ 市川市消防第四十七分団
 ㊽ 市川市消防第四十八分団
 ㊾ 市川市消防第四十九分団
 ㊿ 市川市消防第五十分団

等高線間隔 10m
 1:20,000

500m 1m 500m 1000m

千葉商科大学
 2018年3月31日(土)

| | | | |
|--------------|--------------|------------|---------------|
| 11 国府台公園上野球場 | 30 市川市最高標高地点 | 46 ロンコル中山店 | 59 甲大神社の新しい鳥居 |
| 12 上野球場 | 31 北谷臨時消防署 | 47 スタイン | 67 砂行寺の津波被害 |
| 13 市川市立公園 | 32 市川市立公園 | 48 市川市立公園 | 70 市川市立公園 |
| 14 市川市立公園 | 33 市川市立公園 | 49 市川市立公園 | 71 市川市立公園 |
| 15 市川市立公園 | 34 市川市立公園 | 50 市川市立公園 | 72 市川市立公園 |
| 16 市川市立公園 | 35 市川市立公園 | 51 市川市立公園 | 73 市川市立公園 |
| 17 市川市立公園 | 36 市川市立公園 | 52 市川市立公園 | 74 市川市立公園 |
| 18 市川市立公園 | 37 市川市立公園 | 53 市川市立公園 | 75 市川市立公園 |
| 19 市川市立公園 | 38 市川市立公園 | 54 市川市立公園 | |
| 20 市川市立公園 | 39 市川市立公園 | 55 市川市立公園 | |
| 21 市川市立公園 | 40 市川市立公園 | 56 市川市立公園 | |
| 22 市川市立公園 | 41 市川市立公園 | 57 市川市立公園 | |
| 23 市川市立公園 | 42 市川市立公園 | 58 市川市立公園 | |
| 24 市川市立公園 | 43 市川市立公園 | 59 市川市立公園 | |
| 25 市川市立公園 | 44 市川市立公園 | 60 市川市立公園 | |
| 26 市川市立公園 | 45 市川市立公園 | 61 市川市立公園 | |
| 27 市川市立公園 | 46 市川市立公園 | 62 市川市立公園 | |
| 28 市川市立公園 | 47 市川市立公園 | 63 市川市立公園 | |
| 29 市川市立公園 | 48 市川市立公園 | 64 市川市立公園 | |
| 30 市川市立公園 | 49 市川市立公園 | 65 市川市立公園 | |
| 31 市川市立公園 | 50 市川市立公園 | 66 市川市立公園 | |
| 32 市川市立公園 | 51 市川市立公園 | 67 市川市立公園 | |
| 33 市川市立公園 | 52 市川市立公園 | 68 市川市立公園 | |
| 34 市川市立公園 | 53 市川市立公園 | 69 市川市立公園 | |
| 35 市川市立公園 | 54 市川市立公園 | 70 市川市立公園 | |
| 36 市川市立公園 | 55 市川市立公園 | 71 市川市立公園 | |
| 37 市川市立公園 | 56 市川市立公園 | 72 市川市立公園 | |
| 38 市川市立公園 | 57 市川市立公園 | 73 市川市立公園 | |
| 39 市川市立公園 | 58 市川市立公園 | 74 市川市立公園 | |
| 40 市川市立公園 | 59 市川市立公園 | 75 市川市立公園 | |

第3回 フォトログ in いちかわ
 2018年3月31日(土) 千葉商科大学

・3時間 全4ポイント 2000点満点
 開始ののちに行くと、この順番と同じ順番の写真を撮ります。撮影すると、そのポイントの数字が印刷されます。
 公共交通機関は、電車・道路のみの利用可です。
 運動は各自でご確認ください。
 (必要な) 服装にしてください。雨具は各自持ち込みます。
 どんな服装でも15時には1ゴールすること。
 遅れそうなときは 080-3470-0733 (仮名) に連絡してください。雨天は中止です。
 交差点では、優先道路でも必ず止まって左折してください。
 自転車で走る、自転車・歩行者は危険!

走って、獲って、ポイントゲット!

フォトログ in いちかわ

第3回

2018.3.31 SAT
 8:30~15:30

集合場所: 千葉商科大学 THE UNIVERSITY DINING

参加者募集

今回のテーマは「防災」です。

千葉商科大学 2018年3月31日(土)

2018/03/31(土)
 第3回フォトログ in いちかわ
 参加者用
 LUNCH TICKET
 チケットはスタッフへ
 差し込んで!

THE UNIVERSITY DINING

楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

「防災フォトログ」実施 (2018年3月31日)

◆「楽しい」をデザインすること

- ・The University DINING の活用 (明るく開放的な空間・ランチ提供)
- ・学生の運営参加 (若い感性・訓練ではなくイベント)
- ・子供が参加しやすい内容 (親子で参加・賞の設定・記念品)
- ・消防署の協力による防災体験(起震車・消火器・煙体験ハウス)

◆実施概要

- ・開催日時:2018年3月31日(土)8:30~15:30
- ・開催地:市川市内
- ・参加者:223名(大人151名、子供64名、3歳以下8名)
- ・参加費:3歳以下無料、4歳~小学生500円、中学生以上1500円
- ・参加賞:UD ランチ・UDロゴ入りホイッスル
- ・表彰式景品:防災グッズ

◆参加者の声

- ・初めて家族で参加したが楽しめたのでまたやってみたい。
- ・子どもががんばって走る姿を見られて良かった。
- ・学生の皆さんが地域に興味を持ち、地域住民を巻き込む活動をされていることに感心します。
- ・今後も継続して行ってほしいです。学生さんの運営もとても良かったです。
- ・桜満開の中とても楽しかったです。楽しすぎて時間が足りませんでした。
- ・広範囲に歩けたので楽しめた。地域の人々が交流できるとさらに良し！！
- ・学食での美味しい食事が楽しみで参加しました。ログも楽しいのでまた参加したいです。



楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

◆防災フォトログ 当日の様子



楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

◆ フォトログから戻りランチ後には
消防署による防災訓練を実施



消防車



消火器体験



起震車体験



煙体験ハウス



防災の心得

楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

◆防災広報ツールの配布



市川市洪水ハザードマップ・減災マップを配布

楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

◆参加記念品



参加者全員に
ランチチケットと
防災用ホイッスルを提供



優勝者に
The University DINING
ロゴ入り保温ボトルを提供

楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

「フォトログ in いちかわ」開催実績

- ◆第0回:2014年 11月16日(日)11:00~15:30 【トライアル開催】
ログイン経験者15名 企画運営学生10名参加
- ◆第1回:2016年 2月28日(日)9:00~15:30 【市川の今を走り、歴史を知る】
参加者:150名
- ◆第2回:2017年 5月28日(日)8:30~11:30 【撮れば思い出、座ればグルメ、楽しむ姿は探検隊】
参加者:200名
- ◆第3回:2018年 3月31日(土)8:30~15:30 【防災フォトログ:今回のテーマは防災です】
参加者:223名
- ◆第4回:2018年12月9日(日)9:30~15:30 【平成最後のフォトログ】
参加者:200名
- ※第5回:2020年2月開催予定【SDGsフォトログ】は新型コロナウイルス感染症のため中止
- ◆第5回:2022年11月13日(日)9:00~15:10 【UDログインinいちかわ:大学生からの挑戦状】
参加者:62名

楽しい防災教育① フォトログ in いちかわ

「防災」テーマ以外でも定期開催する意味

◆最寄り駅から大学までの道しか知らない学生たちが、企画運営に加わることで、4年間を過ごす街に対する興味関心が高まる。

→新入生向けログインの計画（年度初めの定例イベント化を目指す）

◆自分の暮らす街を隅々まで自分の足で走る(歩く)ことにより、参加する地域住民にとっては新たな発見があり、地元を愛する気持ちがさらに高まる。

◆交通機関が使えない際の、自宅から千葉商科大学までの移動を実感できる。

◆地域住民と学生・教職員が楽しくコミュニケーションする場となり、有事の際の避難場所としての安心感が生まれる。

楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

防災に対する The University DINING の計画

サバイバルキャンプ

in
いちかわ

72時間サバイバル教育プログラムを大学に導入し、
有事の際のサバイバルスキルを大学生と教職員が身に付け、
その先に地域の子供たちを指導する体制を大学に作る「楽しい防災教育」の計画。
SDGs 目標11:「住み続けられるまちづくりを」達成への千葉商科大学としての取組。

「サバイバルキャンプinいちかわ」プロジェクトビジョン

① サバイバル教育プログラムを導入し大学生のスキルを高める



② 大学生・教職員からサバイバル教育の指導者人材を作る



③ 大学生・教職員・OB OG が中心となり地域の小学生を指導する



④ 大学の指導体制が固まり活動が活発になる



⑤ 行政・産業界も加わり一気に市川市から全国に広がる

楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

72時間サバイバル教育協会

代表理事：片山誠氏



災害発生後72時間を超えると生存率が大幅に下がると言われています。そのため、行政等の組織的救出・支援（公助）が始まるまでに、周りに大人がいない状況でも自力で生き抜く力（自助）が必要となります。「サバイバルスキル」の修得は勿論のことながら、どんな状況でも自分で考え判断し行動する「サバイバルマインド」の修得の両立を目指していきます。この72時間サバイバル教育を普及することで災害発生後に一人でも多くの子供たちがたくましく生き抜く力を身に付けるだけでなく、社会に出てからも自らの人生を自ら切り拓く自立した若者が増えることを願ってこのプロジェクトを推進していきます。



楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

災害時に生き延びるために必要なスキルを学ぶための「72時間サバイバル教育プログラム」



① ファイヤー
寒さをしのぎ、調理にも使う「火」を、災害時にはどのようにして使用・管理するのか、その具体的な方法を学びます。



⑤ SOS
災害時に救助隊にいち早く発見してもらうためにはどのようにすれば良いか、SOSの方法を学びます。



② ウォーター
災害時に必ず必要になる「水」。どうやって水を確保し、安全に管理するか、その具体的な方法を学びます。



⑥ ファーストエイド
ケガをした場合の止血、応急手当の方法をはじめ、熱中症、低体温症、感染などの二次災害を防止する方法を学びます。



④ シェルター
災害時に雨露・寒さ・暑さをしのぐために必要な「住」環境をどのようにして確保するか、具体的な方法を学びます。



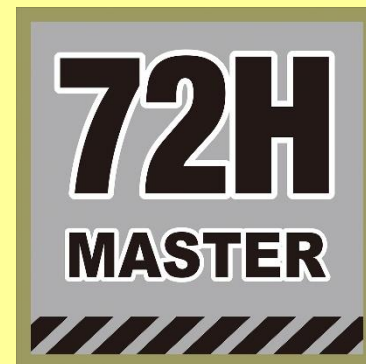
⑦ ナイフ
災害時に役立つ道具の「ナイフ」。安全に使いこなせるよう、体験を通じてさまざまな使用方法を学びます。



④ フード
限られた環境でどのようにして食事の確保を行うのか、ある物を工夫しておいしく食べるノウハウなどを学びます。



⑧ チームビルド
災害を乗り越えるために必要な避難場所でのチームづくりと、そこで必要な役割や行動とは何かを学びます。



◆公認サバイバルマスター

災害時に自分を守り、他人を助ける知識と技術を学んだ証。災害時にはマスターに避難所や現場でスキルに合わせて活躍するミッションが与えられるという仕組みづくりをします。さらに自分自身のスキル向上に取り組み、自分の地域において子どもたちが継続して学習していくサポートをしていきます。



楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

- ◆第1回:2019年3月8日(金)10:00~15:30 1号館前緑地
プログラム受講者8名(学生5名・社会人3名)・フォトグラファー1名・
ビデオ撮影1名・運営メンバー3名・見学者1名
- ◆第2回:2019年10月23日(水)10:00~16:00 正門守衛室裏空き地
プログラム受講者14名(学生14名)・フォトグラファー1名・運営メンバー3名・
取材学生1名
- ◆第3回:2020年11月28日(土)9:00~16:00 1号館前緑地
プログラム受講者10名(学生8名・職員2名)・フォトグラファー1名・運営メンバー3名
- ◆第4回:2021年6月12日(土)9:30~16:30 1号館前緑地
プログラム受講者15名(学生15名)映像製作スタッフ2名・運営メンバー4名
- ◆第5回:2021年10月23日(土)9:30~16:30 1号館前緑地
プログラム受講者5名(学生5名)フォトグラファー1名・運営メンバー5名
- ◆第6回:2022年5月29日(日)9:30~16:30 1号館前緑地
プログラム受講者8名(学生8名)フォトグラファー1名・運営メンバー5名
- ◆第7回:2022年9月12日(日)9:30~16:30 1号館前緑地
プログラム受講者10名(学生10名)フォトグラファー1名・運営メンバー4名

楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

第3回サバイバルキャンプ in いちかわ (2020年11月)



1号館前の緑地で実施



小学生の時以来のマッチ体験



少量の新聞紙と木っ端から
太い薪に火を起こす



実技を終えてから筆記試験。
合格者にはワッペンを贈呈。



合格者に渡されるファイヤーワッペン



「思っていたよりずっと楽しかった」の声

楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

「トリさんのカレー」開発と防災食としての利用



THE UD PROJECT 2019

私たちがUDプロジェクトは千葉商科大学の学生で組んでいる団体です。SDGs(2030年に向けて持続可能な開発目標)への取り組みとして千葉の魅力をぎゅっと詰め込んだレトルトカレープロジェクトを始めました。何度も試作を繰り返し、僕たちの理想のトリさんのカレーが完成しました!
「トリあえず食べてみる?」

学生が 12名が 2週間かけて 美味いカレーを つくりました!

千原園産物の使用 保存料なし

Curry is my life

| | | | |
|---|--|------------------------------------|--|
| 栄養成分表(1人分/110g) 推定値 エネルギー 172kcal / 丸人ばくばく 33g / 脂質 10.4g 炭水化物 9.9g / 食物繊維 1.3g | | 食物アレルギー特定原材料27品目 小麦 大豆 卵 乳成分 鶏肉 | |
|---|--|------------------------------------|--|

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

2 気候変動

4 質の高い教育をみんなに

7 持続可能なエネルギー

8 豊かさをみんなに実感させる

9 産業と雇用創出

11 持続可能な消費と生産

12 つながる消費

13 気候変動に具体的な対策を

16 平和と公正な社会を築く

17 パートナーシップで目標を達成しよう

CUC 千葉商科大学
Chiba University of Commerce

〒260-0295 千葉市中央区新井1-1-1
 TEL:043-260-1111 FAX:043-260-1738

環境マーク 再生紙マーク 資源マーク

楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

参加学生の声

第4回サバイバルキャンプinいちかわ（2021年6月）

- ◆火の性質、火の危険性、生態系への影響など知らないことばかりで楽しく学べた。
- ◆火やマッチに対する恐怖心が薄まった。
- ◆薪が燃えて灰になるのを見ていると心が落ち着く感じがした。
- ◆自分一人で薪を集め、火を起こし、ご飯とカレーを温めることができ、普段の何倍もおいしく感じた。達成感と感動が同時に生まれた。
- ◆普段の電化生活では、新聞紙を燃やすこと自体できない体験なのですべてが新鮮で楽しかった。
- ◆知っているつもりの事が認識違いだったりして学ぶことが多く、やってみて学ぶことの大切さがわかった。
- ◆自力で成し遂げる実感があり、上手いいかないことも含めて充実していた。
- ◆体験しているかいないかで、いざという時の安心感が違うと思った。
- ◆自分だけでなく他者も助けようと思う。

楽しい防災教育② サバイバルキャンプ in いちかわ

所感及び今後の展望

コロナ禍において、私たちは今までの生活スタイルを見直さざるを得ない状況となっている。最終的には**自分の事は自分で出来ない**と**ダメ**なのだ、政治も会社も当てに**してはダメ**なのだ、と言った思いを持つ人は多いだろう。キャンパスにおける各種イベントが中止される中、第3回・4回・5回サバイバルキャンプinいちかわを開催した理由には、**有事を生き延びるスキルを身に付ける**こともさることながら、参加者一人一人が**自然との共生をベースにした、これからの生き方を考える機会**にして欲しいとの思いがある。

マッチで火を起こす経験は、ほとんどの学生にとっては小学生以来のことで、皆一様に苦戦していた。それでも火が燃える上での3要素を理解するにつれて、マッチから新聞紙へ、更に木端へ薪へと火を大きく育てることが出来るようになっていく。これが出来るようになるまでに、午前中の3時間を使った。私たちの年代からするといかにも簡単な行為と思えるが、これが今の大学生の現状である。

多くの大学生は有事を乗り越えるための自助力が不十分である。本学が地域防災に機能するためには、まず彼ら自身の**防災スキルをアップさせる必要がある**だろう。「**楽しい防災教育**」をカリキュラム化してより多くの学生が体験できるようにすることも考える必要があるのではないか。その中から意識を高く持つ学生が現れることを期待する。自助力を身に付けた上で、その力を**地域の子供たちを指導する側として活かせる人材**を、どれだけつくっていけるかが重要と考える。大学のサポートにより、72時間サバイバル教育協会のコーチ育成プログラムを履修し合格へ導くことも考えたい。

楽しい防災教育③ 車バイバル

- ◆第1回「車バイバル」実施 2021年6月13日(日)9:30~16:30
- ◆国府台コンソーシアムで知識と体験を共有 → チーム化促進
- ◆大規模水害でのクルマ避難民の受け入れ態勢構築
- ◆「車バイバル」を「楽しい防災教育」として地域住民へも展開

